イギリスの Horticultural code of practice (園芸に関する行動綱領) について

英国では、2005 年 3 月に、園芸に関連する事業者や消費者を対象に、外来植物の更なる蔓延を防ぐためにはどう管理し、処分すればよいかという情報を提供する綱領をとりまとめた。Code = 綱領であり、正しく履行することにより、侵略的外来植物が国土に広まることを防ぐものであるが、その履行は各人の自由意志による。現在のところ、侵略的外来植物を管理したり、生息地を報告したりする法的義務はない。

ガイドライン

自分が何を育てているか知ろう(すべての利用者対象)

外来植物が「侵略的」であるかどうか分からない場合、予防的な取扱をすることが重要。 植物や土壌についた疫病や害虫を持ち込まないようにしよう(輸入業者、バイヤー対象) 自分が何を売っているのか知ろう(業者対象)

庭や池には、外来植物よりも良い代替物を使うことを勧める。また、侵略的な外来植物を 販売し続けるのであれば、明確に正しく種類名や成長の度合いを記載すること。

植物には明確で正確な標示を掲げよう(業者対象)

標示には、侵略的外来植物が庭から逸出した場合の環境への危険について記載されるべき。 混乱を防ぐため、通称とともに学名も使用すること。正しい学名を知らないのであれば、 その植物を売るべきではないし、その植物が何であるか分からなければ売ってはいけない。 **植物由来の廃棄物は適切に処理しよう。絶対に野外に不法投棄しないように(すべての利**

植物及びその部分は、野外に廃棄してはいけない。多くは、堆肥化するか、自治体のリサイクルセンターに持っていくことができる。また、規制対象の廃棄物は、Environmental Protection Act の第33条に従って廃棄されなければいけない。

いくつかの植物(例:イタドリ)は、堆肥化してはいけない。イタドリの処理方法については HP を参考にするほか、庭からの廃棄物を燃やしていいかどうかは地域の自治体に連絡を取ること。

自分が何を買うのかを知ろう(消費者対象)

侵略的外来植物の使用を避け、可能であれば認定を受けた供給者から手に入れた地元産の 在来植物を使おう。また、友人と植物を交換するときはその侵略性について考慮するとと もに、購入するときにはその仕様明細と見比べ、チェックしよう。

管理方法についてアドバイスを受けよう(すべての利用者対象)

関連する法律について知ろう(すべての利用者対象)

侵略的外来植物を安全に管理しよう(すべての利用者対象)

除草剤や機械を使用する際には注意を払うこと。水辺で除草剤を使用することは、資格を 持たない限り違法であるし、有毒物質を含む植物もある。

背景となる法的枠組み

国際条約

CBD (生物多様性条約)が国際的な枠組みとなっており、生態系、生息域、在来種の脅威となる外来生物の導入の予防や防除を要請。ベルン条約 (Convention on the conservation of European wildlife and natural habitats) にも侵略性外来生物についての記載がある。

ヨーロッパ

EU 法の EC Habitats Directive が、加盟国に意図的な外来生物の導入を制限し、必要であれば禁止するよう要請している。英国においては、国内法の Wildlife and Countryside Act 及び Nature Conservation Act (スコットランド)にて担保している。同じく EU 法の EC Plant Health Directive は、外来の植物の病気の侵入を防ぐものであり、国内法として Plant Health Order が執行されている。Plant Health Order は、EC 以外の国から英国に入ることを認められたすべての植物について、植物衛生証明書の添付を義務付けている。また、EC 内を移動する多くの植物に植物衛生証明書に相当する植物パスポートの添付を義務付けている。

英国

Wildlife and Countryside Act が、外来生物を放つことを制限する主な法律である。定められた侵略的外来植物の種を野生下に植えること、若しくは野生下で育つようにすることが禁止されている。

綱領の公表時には、陸上植物としてイタドリと Heracleum mantegazzianum (和名なし)が選ばれている。

ほかにも、Environmental Protection Act において、廃棄物の処理を規制しており、イタドリと *Heracleum mantegazzianum* 及びこれらの植物の部分を含んだ土壌は、規制対象の廃棄物となる。